

荒川区区政改革懇談会

第6回教育分科会議事要旨

【日時】

2月13日(火) 18:30~20:30

【場所】

荒川区4階庁議室

【次第】

ステップ1: 「前回の議事録」の確認

ステップ3: 「提言書」のまとめ及び「提言
報告会」に向けて

ステップ2: 「提言(案)」について考えよ
う

ステップ4: 座長より分科会のまとめのあい
さつ

ステップ1 「前回の議事録」の確認

はじめに座長から挨拶、区の出席者紹介がなされた。
コーディネーターから前回の会議録の確認がなされた。

前回欠席された委員より以下のようなコメントがなされた。

- ・ 教育の現場の把握ができていなければ教育をよくする施策は生まれにくい。一般の方に教育現場の様子が伝わっていないというのがあったが、伝わっていないのが当たり前になっている。
- ・ 区が教育の行政サービスの面で1位となったそうだが、それはすごいことだと思う。しかし、指導の面で1位というのは出てきていない。良い教育を行うために現実を把握しなくてはならず、そうしないと机上の空論になってしまう。
- ・ 提言の中に教育の現場を打破するための具体的方策を確立することを書いていくべきである。
- ・ 学校と保護者と地域と行政が一体にならなくてはいけない。ここでは行政が中心になってやっているが、現場のよくわかっているメンバーを少人数で数多く作り、定期的に、かつ本音での話し合いをする場が必要である。そこでは校長などではなく、現場の教員が議論に参加する必要がある。保護者もPTAの役員でなく、常日頃から学校に不満を持っているような保護者など、人選をじっくり選んでやるのが重要である。また、その会議の内容を公開していくことも重要である。
- ・ 学校評議員制度があるが、そういった人選方法を変える、会議内容を公表するということで変わっていくのではないか。
- ・ 学校側は何か問題が起こっても教育委員会には言わずに隠そうとすることが見られる。民間でも組織の中ではそういったことはあるが、問題はどの程度程度のことを報告すべきか、ということ。その判断が個人の経験などで違いがあり、学校は甘いのではないか。
- ・ 日本には失敗を評価する雰囲気がない。失敗を評価してくれる民間企業もあるが、まだまだ社会全体としてそういった雰囲気ではない。教育界には失敗を評価することはない。こ

のようなことから、隠そうとする雰囲気になるのではないか。

また、委員から以下のような意見が出され、指導室と意見交換を行った。

(意見)

- ・ 教員養成課程では勉強を教えることを指導しているのだろうが、問題が起こったときの対処方法など、外部とのコミュニケーションなどを教えてはいないと思う。そういったこともおかしくないか。
- ・ 教員が問題にあたったときの指導方法などのアドバイザーが必要である。
- ・ 民間なら、入社前にコミュニケーション能力を問われるが、学校は点数による選考となっている。その辺りがブラックボックスになっているのではないか。

(指導室回答)

- ・ 初任者研修のしくみを説明。学校では団塊の世代の大量退職期がくる。ベテランの先生は授業の力はある。その力を若い世代にどうやって継承していくかということを課題としてやっている。

(意見)

- ・ 2週間の教育実習で担任をもたされているのをおかしいのではないか。医者のようにインターンとして様々な授業を聞いたりすることはできないか、という可能性を聞きたい。

(指導室回答)

中学校の場合、一年目は担任は持たせていない。副担任として担任の先生を見て周るというパターンが多い。小学校については都から学級数分の教員しかもらえないことになっている。新卒の先生だと保護者から不安の声が上がるのは間違いないが、OJTという形でやるしかないことになっている。よって、2クラスあれば、もう1クラスは力のある先生と組み合わせるといった取り組みをしている。

(意見)

- ・ 学校選択制によって、あるクラスは40人を教えているが、またあるクラスは15人しか見ていないといったことが起こっている。そういったのは不合理ではないか。
- ・ それだけではなく、クラス数の少ない学校では、主要5科目以外の教師などでは一週間で6時間など少ない授業で同じ給料をもらっているケースがある。
- ・ 評価の良い先生がどういった基準で評価が良いのかが見えない。また誰がどう運用しているのかが問題があると思う。

(区指導室回答)

- ・ 今の教員の評価では一次評価が校長、二次評価が教育委員会となっている。校長は一応評価者訓練を受けている。

(意見)

- ・ 学校評議委員でアンケートを出したことがあるが、回答率は3分の1だった。アンケートも一種の評価だと思うが保護者自体が評価したくない、面倒だといった意識があるのではないか。

(質問)

- ・ 指導室としては、一つ一つの学校としての問題の把握はどの程度できていると思っているか。現状をどのくらい捉えているという感覚があるかという認識を聞きたい。

(区指導室回答)

- ・ 先生の授業の指導力に関する情報は持っていると思う。また、特色のある教育課程のある部分に関する情報も持っていると思う。一方で、生活面、保護者対応の面では現実に報告が無いという場合もある。それは事の重大さに関する認識の温度差があることから考えられる。基本的に「学校で解決できるものは学校で」というスタンスだが、この程度なら学校の中で対応できるということと、指導室としては報告をもらって一緒に解決に向けて取り組んだ方が良いと思われるところが上手くかみ合っていないという部分もある。

(座長まとめ)

- ・ 教育はお金がかかるものなのだ。荒川区としてできるだけのお金をかける必要があるという提言をしたい。またボランティアでも、なかなか報酬がないとやっていけないというのがある、といったことを提言していきたいと考えている。

ステップ2 「提言(案)」について考えよう

「1.はじめに」について

- ・ 「向上方策、方向性について書いた」とあるが、そうすると「現状認識、問題点」は提言の位置付けとしてはどうなるのか。
それを前提として提言しているという意味である。

2.「家庭の教育力の向上」について

1. 「学校にしつしまでを教えろというべきではない」という記述の趣旨は「学校に全てを押し付けるべきではない」ということであり、そのような言葉に修正する。

3.「家庭と学校の連携による教育力の向上」について

- ・ 「学校はしつしまでを教えろというべきではない」は削除する。
- ・ また、「人質」という表現は適切ではないので削除する。

4.「学校の教育力の向上」について

- ・ 解決、向上のための方向性に、「定年退職者の再雇用の教員が新卒について指導をする。また、再雇用の先生の活用をする。」といった趣旨のことを追加する。
- ・ 飲食に関する書き込みを削除する。
- ・ 「学校と教員の適正規模の確保」といった趣旨の文を追加する。

5.「学校と地域の連携による教育力の向上」について

- ・ 問題点として「学校選択制により、学校と地域の連携が取りづらくなっている」ということを追加する。

6. 「地域による教育力の向上」について

- ・「おじさん」という表現をやめ、地域の年長者とする。

7. 「地域と家庭の連携による教育力の向上」について

- ・「教育」のことまで考えられる町会の役員が居ない。町会の役員の中で、地域と家庭を結びつける、教育担当役員を置くべきではないか。そのような方を学校評議員に入ってもらうのも良い。
- ・実際には各町会で青少年部があると思うが、そのような方に教育の役割を含めてやっていただければ良いのではないか。
- ・町会はボランティアなのでお願いの仕方が重要。その辺りをうまくもっていく必要がある。
- ・7と8を一つにしてはどうか。

8. 「家庭と学校と地域の連携による教育力の向上」について

- ・青少年の犯罪の低年齢化についての記載を現状認識、問題点に追加する。
- ・青少年教育はありとあらゆる角度から教えるのが効果がある、といった記載を解決策に追加する。

ステップ3 「提言書」のまとめ及び「提言報告会」に向けて

・提言案に関してはなるべく早めに修正をし、委員に郵送し、確認をとって確定とすることとなった。

- ・提言報告会について参事より説明がなされた。
- ・発表は副座長の安部氏になった。

ステップ4 座長より分科会のまとめのあいさつ

座長よりまとめの挨拶がなされた。